

梁朝中 節序

和書門類		
二四三九	一〇六	函
架	冊	號
三	七	冊

內閣文庫	
和書類	二四三九
架	冊
函	號
一七	架
九	冊

內閣文庫	
番號	和 24359
冊數	3 ( 2 )
函號	190374

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





樂訓卷之中

節序

淺草文庫

一とせ乃日月あははらひのしらほねよあらくはけは  
りそれく若古よりあのかさやまは其るあすこ  
このより雪のはゆるまきく其きくさあつく  
よあとかかり又海さゆよのきくま目よあとかれ  
ぬま<sup>タイ</sup>ま<sup>タイ</sup>さいま<sup>タイ</sup>りやんあ<sup>タイ</sup>あ<sup>タイ</sup>ら<sup>タイ</sup>まよあ<sup>タイ</sup>りく  
象<sup>シヤウ</sup>とま<sup>シヤウ</sup>らひ日月のあやさい風ぬのうらあ<sup>シヤウ</sup>り



①  
霧のまじりつらぬる雲<sup>カスミ</sup>烟のたるひきり八丈の丈也  
地より形とやせらるいふ海はうんたら流れ  
い海乃ちかくひらきも獸乃鳴とて物とてるも本  
れあひまけまるい地の丈也也のわくあはけら  
の池に附れ約とれ百物乃るわる海りさ海目の  
まんよらしくとて人のらる事とよらこらとてあむ  
と感やしむ事大なるよあらるれあれをよ  
まん人の眼力との境界とて一時との良辰とて

て其よあはるる只人乃るこれをまき万戸侯乃あふ  
くく人やうくむととあむく玩<sup>モリ</sup>ん人の其よあ  
まらまらわらるる

いふや天地の内よまらたらるの時れまきまのこら  
まらるまきよあむとて人まきまら一あ乃わらよ  
あつたまの年まあつる物のをれえんはあむ  
やうのよあむらうくのよけ一睦月ハあむらう  
てあむまあむもよあむあむらうのよあむらう



父のけりりくねがまをいすめてすけと  
 わく父母よまよふて次よるあつ親し実  
 寄よもめてあひなほちまはねよあついと  
 めんいこうあつうりなりけい今い田の娘を  
 れんそられまきまわうく引ぬあら風ゆり  
 くあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 すいたるいけるあつあつあつあつあつあつあつ  
 それそらあつあつあつあつあつあつあつあつあつ













ふみくさたふれとほまひの地ひらき  
らとあふもあつて野よひ又陽烟イナの  
かたはれ地よりまのれ又ふけりよ  
の庄園いこれと野よひ老杜うつよ落葉遊  
線白日静ありさくもさあつて  
ひたさゆわらうまわさつて  
のまよやくのえ出るさくもつまよ  
舞ハ下よりのあさきらあつて花りやう

くさすけを梅花とてようちひと後  
なりはらう園なぬわらうのむら  
あつたさひく雲のおりけのたつ  
白さのまよあつて乃君のあつて  
見えさういとうらましく様のか  
花よふかたれと人のふとあつて  
さうめたれもさう日のふめく  
さあつてもさ一のふとあつて



おはのおと花の咲けとされぬされと目ありま  
せまふせく庭うぐさむるうほくまをかんる程も  
かくとらるいふうめしうううううううううう  
りんしん様花乃ふありと面うけめくこと古  
の人のよききんも後乃おしひ出のせんともや  
情ううけけおあうまぬの志うくあれたううや  
との園の桜はいつよあさんとうううううう柳  
まうりよむおよしてまきのううとあうま出せうり

いとうらりいさあうあちりままううくあううれ  
を風初るよ目あうううよあまよあうとあうそひ群  
む勢とまともやうられううれのまうまれあう  
らんやあうまうまうあううう人の名もあうま  
とあううううううううううううううううう  
ありまひねあうまとあうあううううううう  
あうあまうううううううううううううう  
れううううううううううううううううう



月を心の糸とあはせたる人の無頼れ少年の閑  
 とぬきとてそらりよひの月とるよ似たりと思ふ  
 一丁芳草雨後は秀く好花風裏よるる  
 もけかりたり杜のゆよの秋の歌あそび  
 西よあけいと云凍希夷り花を啼き多一般  
 のまど極きしり皆けけりむのゆよと  
 すこしあひよのりくもるもあそよ色まされ  
 るを地をとらるあよ坐し月よあひく二かろ





中八  
あけさるゝ朱<sup>ニ</sup>去<sup>リ</sup>宵<sup>ノ</sup>一刻<sup>ニ</sup>盡<sup>ス</sup>千金<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup>有<sup>リ</sup>清香<sup>ノ</sup>月<sup>ハ</sup>  
有<sup>リ</sup>陰<sup>ニ</sup>さ<sup>レ</sup>る<sup>ニ</sup>宿<sup>ト</sup>さ<sup>レ</sup>ひ<sup>ノ</sup>物<sup>モ</sup>も<sup>ぬ</sup>又<sup>ハ</sup>惜<sup>シ</sup>去<sup>リ</sup>起<sup>ル</sup>早<sup>ク</sup>愛<sup>ス</sup>  
月<sup>ハ</sup>夜<sup>ニ</sup>眠<sup>ル</sup>遅<sup>ク</sup>と<sup>り</sup>り<sup>ノ</sup>古<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>か<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>ニ</sup>月<sup>ハ</sup>む<sup>と</sup>め<sup>く</sup>  
—<sup>ハ</sup>今<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>海<sup>ニ</sup>さ<sup>る</sup>夜<sup>ノ</sup>月<sup>ハ</sup>と<sup>花<sup>ハ</sup>よ<sup>と</sup>し<sup>き</sup></sup>  
て<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>ら<sup>し</sup>と<sup>は</sup>じ<sup>し</sup>—<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>花<sup>ノ</sup>の<sup>ら</sup>れ<sup>ノ</sup>風<sup>ノ</sup>  
う<sup>ら</sup>め<sup>さ</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>  
む<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>は</sup>夕<sup>ニ</sup>た<sup>れ</sup>い<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>—<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>  
乃<sup>ハ</sup>あ<sup>け</sup>わ<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>同<sup>じ</sup>う<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>ま<sup>ら</sup>ん<sup>も</sup>の<sup>ら</sup>り<sup>た</sup>れ<sup>い</sup>ま<sup>ら</sup>

入<sup>リ</sup>焼<sup>痛</sup>ま<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>又<sup>ハ</sup>野<sup>火</sup>焼<sup>不</sup>去<sup>カ</sup>去<sup>リ</sup>風<sup>吹</sup>後<sup>生</sup>  
と<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>け</sup>時<sup>ノ</sup>の<sup>ま</sup>と<sup>花</sup>を<sup>し</sup>なり<sup>古</sup>宿<sup>よ</sup>  
池<sup>塘</sup>ま<sup>ら</sup>草<sup>生</sup>と<sup>り</sup>り<sup>—</sup>は<sup>け</sup>は<sup>乃</sup>眼<sup>前</sup>の<sup>池</sup>  
ま<sup>ら</sup>と<sup>只</sup>あり<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>こ<sup>よ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>—<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>ら</sup>—<sup>ハ</sup>候<sup>ノ</sup>風<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>  
の<sup>ら</sup>り<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>  
れ<sup>を</sup>い<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>ら</sup>れ<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>  
よ<sup>只</sup>—<sup>ハ</sup>茶<sup>ノ</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>

中八















形くして女をなれいせく遊みありし物さ  
此れさく園とてゆふも風吹くくあてな  
やこまなれい日とみとて足さる多くおも  
本と皆さるりの色とあてて各其趣を  
印せるい物えつらりめとてけいさめい  
まの敷りさく私をくしてけいさめい  
さくれぬ韓渥<sup>ハ</sup>り物よい物最<sup>ハ</sup>好いそ三月と  
あまよといきりされと年たくりぬれいあ

さしむといきりことせ乃月といよ  
あけと卯月よとくいあされいあゆの李夢  
陽うい物の系物とていけいといさるま  
よとていといきりいけいといさるま  
これかちたれとやそ又月といあゆ  
られまといきりいけいといさるま  
くはくといきりいけいといさるま  
あゆぬいといきりいけいといさるま











うつらさなるかきよきよなるきくれりりく  
 かろりすくまもりてかろり清女細く夏と  
 夜とつれとせり人の蚊と云虫人せりて年  
 老くいへりてりりりりりりりりりりりり  
 わるぬきの月りりりりりりりりりりりり  
 してなよせりりりりりりりりりりりり  
 志士の惜日短と侍をりりりりりりりりり  
 契我愛夏日長と柳と竹とつりりりりりり





















神よたたる秋葉のたふさくはなれはなれ  
あじふよひのしほきよきしほきよきしほきよ  
も秋のせしほきははら秋のむらさき  
たぐらうのせしほきははら秋のむらさき  
くぐらうのせしほきははら秋のむらさき  
いけやけのせしほきははら秋のむらさき  
はた多き陽葉のせしほきははら秋のむらさき  
秋のせしほきははら秋のむらさき

もははらうがは七種のあきうらうらう  
かたさくのむらも多めり秋のむらさき  
くぐらうのせしほきははら秋のむらさき  
あじふよひのしほきよきしほきよきしほきよ  
も秋のせしほきははら秋のむらさき  
たぐらうのせしほきははら秋のむらさき  
くぐらうのせしほきははら秋のむらさき  
いけやけのせしほきははら秋のむらさき  
はた多き陽葉のせしほきははら秋のむらさき  
秋のせしほきははら秋のむらさき



よけいさきよすらのあはらあはらよあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと

よけいさきよすらのあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと  
あひさよよあはらあはらあはらあはらあひと



凡つとせ乃内梅のさ記をわくしより菊よりほろをえ  
くしらのむろさうりよほひまらくさねくえい  
やうとちんはありくのちも亦思ひ出よんか  
つひ

秋は陰まれをわろくしあおれいそきまうす  
まうりさうくちやううあそ月日は光ゆるけく  
よものちりるるよ花くさしてひらく風をさ  
まじくいふい其々まじ人の心をさうと感ず

ひが年ふうくまの只花のひさきよくさあり  
わたあられの秋をまされるとよみも時よさ  
あひてはあといりうようそ笑ゆあれ

徳眉より世の人の皆秋の月とわそく秋の日はあな  
るはあられといり世事世の人もんつとあなり  
しよまのつら公の月とくゆる事とねそき  
あもいそを笑あめるをとはけく秋の日乃え  
るまよめりやきいさねくあなる事とあは



ひつじくふるやこより其まきまのりやまのり  
ことひ夕陽の海よあひまのり海よあひ  
まんとすかちをせよ又まのりまのり  
るまのりまのり月よあひまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり(ま  
まのり)

秋は又ゆかれのまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり

ひの縁られたるまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのりまのり







の好むよらうと云秋のねとりまらりありぬん  
しる葉れをいけよつけはくうのゆんとい  
川流よまをわりとさうあかきものちのら  
ねるもくまらりておきまあ

去月おまもありぬれん秋のむらねらり(虫の  
きりやまのぬれぬらりやうくうつとぬま  
ハ秋のくれねお思ひも赤うく秋の只なよ  
うきとやうしるも名なりておきまあ

れはくはらうぬれぬもまらうくぬれぬ  
あゆまのきまもまておきりぬれぬ  
そまもぬれぬまらうくうのぬれぬ  
くまらぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬ  
らりらうぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬ  
れぬぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬ  
あゆぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬ  
ぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬぬれぬ























とつりも亦ひさしく思はるねん老死よのころ  
幸をめでと況ん乃いのちのころを悔やうく  
しとあゝと夕をちりけが壯とらんと老なり  
ちとらん人多きれハ粧をく久くのちをうりま  
せよ海のうけりゆき事早きれハあきう時日  
とじか〜くさる人の心は〜の縁入也 此  
樂訓卷之中終

四三二



